



指導 日本陶芸倶楽部

茶碗

CHAWAN

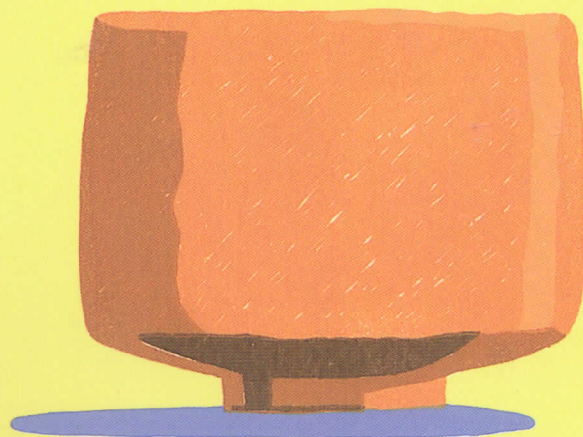
手びねりの

はじめての作陶



茶の湯 手づくりBOOK
はじめての作陶
手びねりの茶碗
指導 日本陶芸倶楽部
淡交社

手びねりの赤楽茶碗にチャレンジしてみましょう
自作の抹茶茶碗ほど、茶席で誇らしいものはありません
昔ほどむずかしくなく、土や材料が手に入り
比較的容易にはじめられるようになった作陶は、
幅広い年代の興味を集めています
茶碗の残土で、おそろいの香合と蓋置もつくります



CONTENTS

「茶の湯」の茶碗 2
必要なものは、これだけです 4

赤楽茶碗篇

Lesson 1 赤楽茶碗の粘土の準備 6

Lesson 2 荒練りをする 8

ほどよいやわらかさを
手で確かめながら作業をしよう 9

Lesson 3 菊練りをする 10

Lesson 4 成形する1 12

濡れタオルで、ときどき手を湿らすわけ 13

Lesson 5 成形する2 14

乾燥によって縮んでゆく茶碗
成形段階の大きさは、できあがり寸法の1割増 15

Lesson 6 成形する3 16

Lesson 7 口辺の処理をする 18

Lesson 8 高台をつくる1 20

高台、「こんなときどうする?」 22

Lesson 9 高台をつくる2 23

付高台のおもしろさ
形は整えすぎないこと 24

Lesson 10 蓋置をつくる 26

蓋置篇

香合篇

Lesson 11 香合をつくる 30

粘土の再生・保存 33

焼成篇

Lesson 12 素焼き・施釉 34

Lesson 13 本焼き 37

小型窯紹介 38

「茶の湯」の茶碗

茶の湯のための茶碗は、唐物（中国製）・高麗物（朝鮮半島製）・和物（日本製）と、大きく3つに分けられます。楽茶碗は和物茶碗の1種です。これは「茶空間で使ううつわを創出した」という強い目的意識を持った利休の意を受けて、陶工長次郎がつくりました。

楽茶碗の特徴は、ろくろを用いない「手づくね（手びねりと同義）」という成形技法です。

この茶碗は、茶の湯以外の場で使われることがほとんどありません。茶陶の世界で揺るぎない価値が認められている茶碗と言って、差し支えないでしょう。



茶筌摺り

ちゃせんずり

茶を点てる際に茶筌が当たる内側側面の下部分。

口造り

くちづくり

口縁 こうえん・
口辺 こうへん

なだらなか、尖っているか、平行か、へら跡を残しているか、内側に食い込んでいるか、それとも反っているかなど、口造りの表情は思いのほか多彩。唯一茶人が直接口をつけて確かめるところ。

畳付

たたみつき

畳に直接触れる面。

見込み

みこみ

茶碗を拝見するとき、まず碗中をうかがい見込むためにこの名がつけました。とくに中央の茶溜まりから茶筌摺りにかけては、鑑賞上もっとも重要な見どころ。

茶溜まり

ちゃだまり

見込み中央部の小さなくぼみ。

胴

どう

腰

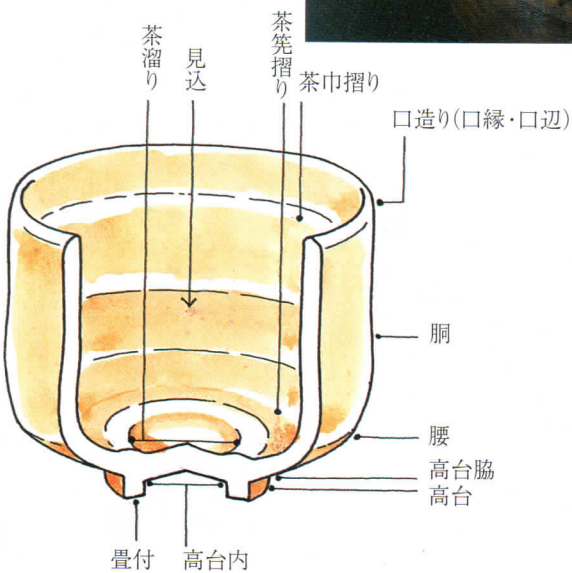
こし

腰が張っているか、すぼまっているか、腰が高いか低いかも、茶碗の印象を決める大きな要素。

高台

こうだい

茶碗の本体底部についた台。土や釉の変化をはっきり見ることができ、作者の特徴を表すポイントです。



必要なものは、これだけです



ボウル

秤

新聞紙

今回、市販のろくろ台のかわりに新聞紙を下敷に使用して成形作業をおこないます。

定規

成形時に口辺の土を叩いて締める作業でも使用します。

手ろくろ

これがあると手びねり成形の作業効率が上がります。



サンドペーパー

100番

素焼きした作品の表面の肌を整えるために。

タオル

濡らして粘土を包み、乾燥を防ぎます。

スポンジ

削りカスやほこりを掃除するとき、また釉がけ後の拭きとりに使います。

手ぬぐい

「切り糸」や、タンポと呼ばれる土肌を整える道具をつくる時になどに。広範に使用します。

タタラ板

粘土を一定の厚みに切り分ける板。5・6・7mmなどを、好みの寸法に積み重ねて使用。本書では香合の上下を切り分けるときに用いましたが、カマボコの板などでも代用可。

片栗粉

断面に振りかけて、粘土のくっつきを防止します。



朱墨
文様の下書きに使用。
墨汁でも可。



ハケ
釉がけするときに使います。

金ベラ
細かな作業のときに。
竹を適当な幅にして、
先端を薄くしたもので
も代用可。



筆

くり抜きベラ
粘土を削る道具。自分
で使い勝手のよい形を
つくってもよいでしょう。
20cmほどにカットした
鋼を万力で挟んで成形
します。



ツゲベラ
本書でもっともよく使
用したヘラ。こすったり、
すべらせたり、削り
出したりするときに。

切り糸
陶土を切り分けるため
の糸。テグス(釣り糸)
と手ぬぐいを使って、
自分でつくることがで
きます(詳細は7頁)。



コンパス

陶芸用品取り扱い先

主に陶芸用品専門店で購入していますが、基本的な道具は、東急ハンズなども扱っています。最近では、粘土をはじめ、陶芸用具一般をインターネットでも注文できます。

陶芸専門店

丸二陶料陶芸ショップ

滋賀県甲賀郡信楽町長野

TEL 0748・82・2191

資材部(0748・83・0202)に問い合わせると各最寄りの販売店を案内してくれる

柳北信陶園

滋賀県甲賀郡信楽町畑35

TEL 0748・82・1062

日本電産シンボ

京都府長岡京市神足寺田1

TEL 075・9568・3621

東京・名古屋にも各店あり

泉陶料

京都市山科区清水焼団地町2の2

TEL 075・591・8866

草葉善兵衛商店

大阪市阿倍野区西田辺町1の9の25

TEL 06・6961・0531

【材料】オンラインショップ

陶芸.com

<http://www.tougei.com/shop/>

陶芸ショップ

<http://www.tougeishop.com/>

【総合】

やきものネット

<http://www.yakimono.net/>

赤楽茶碗の粘土の準備

楽には黒楽と赤楽がありますが、本書では、初心者でも失敗の少ないと言われる赤楽茶碗にチャレンジしてみよう。

現在粘土は、陶土原料を扱う専門店から購入するのが一般的です。ここでは「信楽白土」「京赤土」などという名称で、多種の粘土が売られています。「楽陶土」という粘土もあります。

赤楽茶碗と言っても、どんな土を選ぶかは一様ではなく、たとえば、ある人は市販の楽陶土だけを使ってつくくる人もいますし、また違う粘土を混ぜて使用する人もいます。

ここでは、あらかじめ赤く焼き上げる土を用い、それに透明釉をかけるやり方で作業をすすめます。

赤楽に使用する土

テラコッタ



はにわなどを焼くのに使われている耐火度の低い土(約850~1000度で焼成する)で、赤褐色。急冷に耐える。テラコッタとは、焼いた土を意味するイタリア語。

中国黄土



テラコッタに混ぜて使用する。ここでの主な役割は着色。これを混ぜると土が赤みを増す。

◆粘土の配分

テラコッタ
100

中国黄土
5

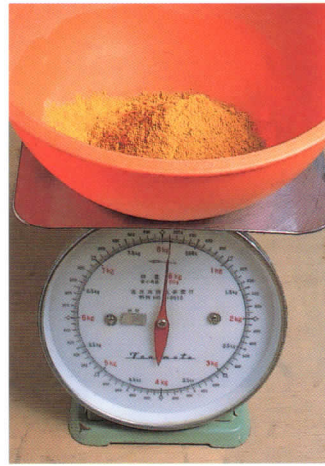
粘土2kgなら、中国黄土100g

◆約2kgの粘土で、赤楽茶碗、蓋置、香合が各1つずつできる。

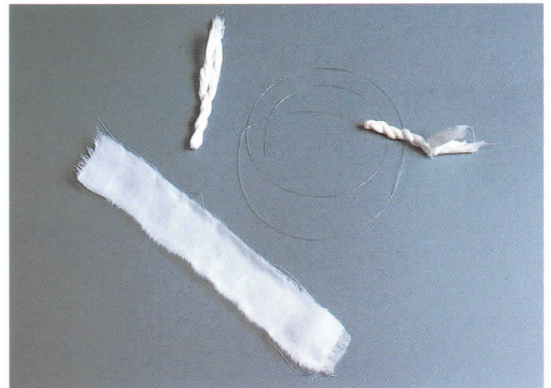
2 水分を含んで粉末がほぼなくなり、テラコッタに混ぜ合わせやすくなればOK。



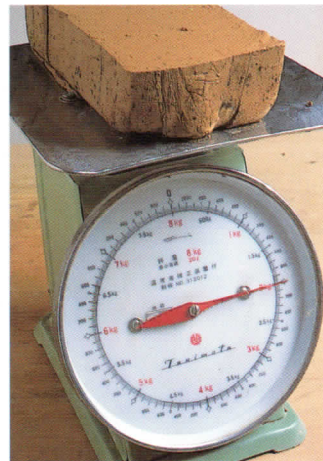
1 中国黄土を100g用意します。中国黄土は粉末状なので、これに50ccの水を合わせます。



4 テラコッタを2kg切り分けます。手前に糸を引くようにして使います。



3 土塊を切り分けるときに使う「切り糸」を用意します。40cmほどのテグス(釣り糸)に、手ぬぐいの布端2枚(約3×18cm)を写真のように燃って結んでおきます。



荒練りをする

陶土は荒練りと菊練りの工程を経て、はじめて成形にとりかかれます。荒練りは、性質の違う土どうし、同じものでも、固さの違う土どうしなどを混ぜ合わせて均質にすることが目的です。



4 なじんできたら、残りの中国黄土をまた適量乗せ、このタテヨコの折り畳みを数度くり返します。



1 テラコッタに中国黄土を混ぜ合わせていきます。一度にたくさんの量だとうまく混ざりませんので、3、4回にわけます。



2 テラコッタの中央に適量の中国黄土を乗せ、奥から手前に折り畳むようにして、てのひらの腹で押さえます。



3 今度は、左右に伸びた土を、中心に向けて折り畳んで押さえます。

6 全体が均一な固さになり、テラコッタと中国黄土が完全に混ざり合ったら荒練り終了。



7 きちんと混ざり合っているかどうかは、半分に分けて確認します。色が違う土どうしがうまく混ざり合っていないと、断面がマール状態になっていて一目瞭然(右写真の粘土は赤楽土とは別種類)。



5 姿勢は1歩足を踏み出し、腕の力だけでなく体重を乗せるようにします。作業台はあまり高くないほうがよいでしょう。



Point

ほどよいやわらかさを手で確かめながら作業をしよう

作業をおこなう季節や環境によっても、粘土の固さが違います。土の表情を見ながら、ベストの固さに加減するのが肝要でしょう。

作業中、台にベタベタとくっつくようだとやわらかすぎ。写真のようにアーチ型にして、しばらく置きます。こうすると空気に触れる表面積が増えて、適度に水分がとぶでしょう。長時間放っておくと、表面だけが乾燥しすぎるため注意が必要。

また作業中、表面がひび割れる、固くて折り畳めないようだと水分が足りない状態。少し水を足す必要があるでしょう。粘土に数個のくぼみをつくって、水を少量ずつ垂らして様子を見ます。

一般的に、ねばりつかず指紋がはっきりつく程度の固さがよいと言われています。



菊練りをする

土の中に空気が残っていると、乾燥や焼成時にそれが膨張し、作品が割れる可能性があるため、菊練りによって気泡を追い出します。練っている土の形が菊の花のようなので、こう呼ばれています。

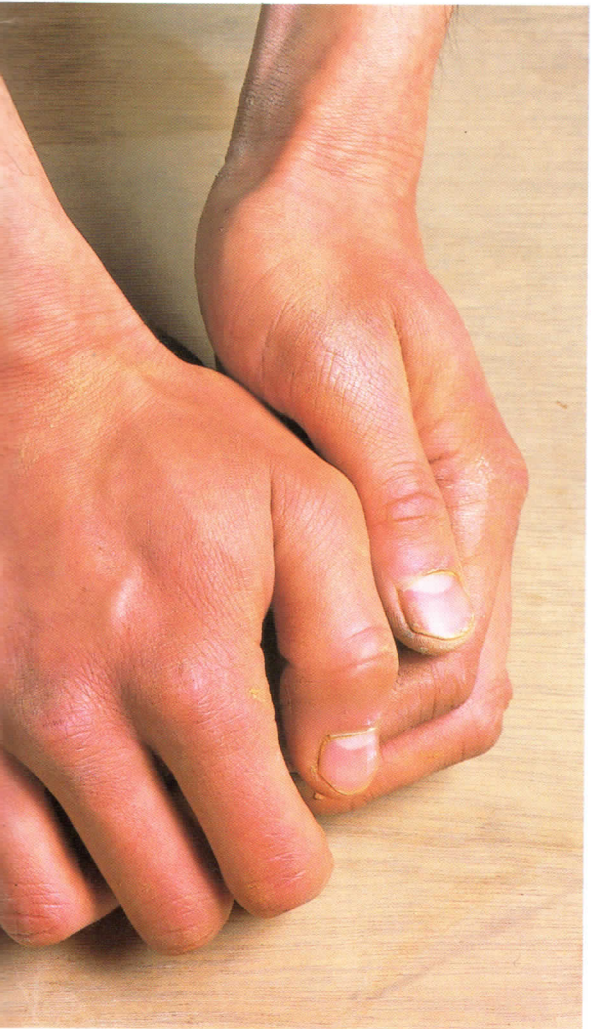
1 荒練りがすんだ粘土。



2 土の頭を手前側からてのひらで支え、一度台に押しつけます。



3 左手をやや奥まったところにして(巻き込むように内側へ手を廻して)、左手で土の頭を起こします。右手は添えるような気持ちです(このときの手は逆でもOK。やりやすいほうで)。

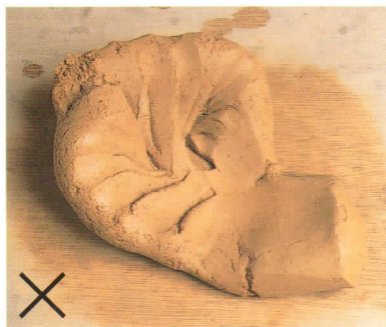
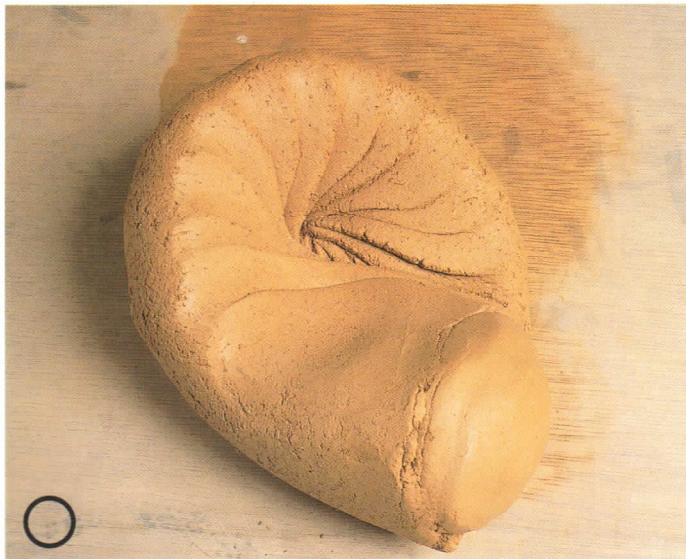
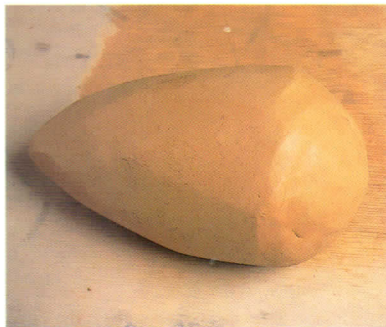


◆この菊練りは初心者にとって、とてもむずかしい作業。うまくいけば、粘土を押しつける位置が少しずつずれますので、粘土全体がうずまき状に回転します。ポイントは土を起こすときに、左右の手を少しだけ互い違いにすること。奥まった手(廻して、起こす役割)に対し、それと反対の手(押す役割)の分業がうまくいけば、リズムカルにおこなえます。やりやすさによって、どちらに回転してもかまいません。おこなっているうちに粘土が少々乾いてきたら、固く絞った濡れ雑巾で作業台を拭いて、水分補給します。

4 左30度の方向へ畳み込むように右手で押しつけます。土は、左30度の方向に寝ている状態。これで花びらが1枚できました。



6 全体が練れたら、土を徐々にまとめていきます。土を押し手の力を徐々に抜きながら、重心を土の頭から胴のほうにずらすようにすると、自然に、手前、手前に土がまとまってきます。

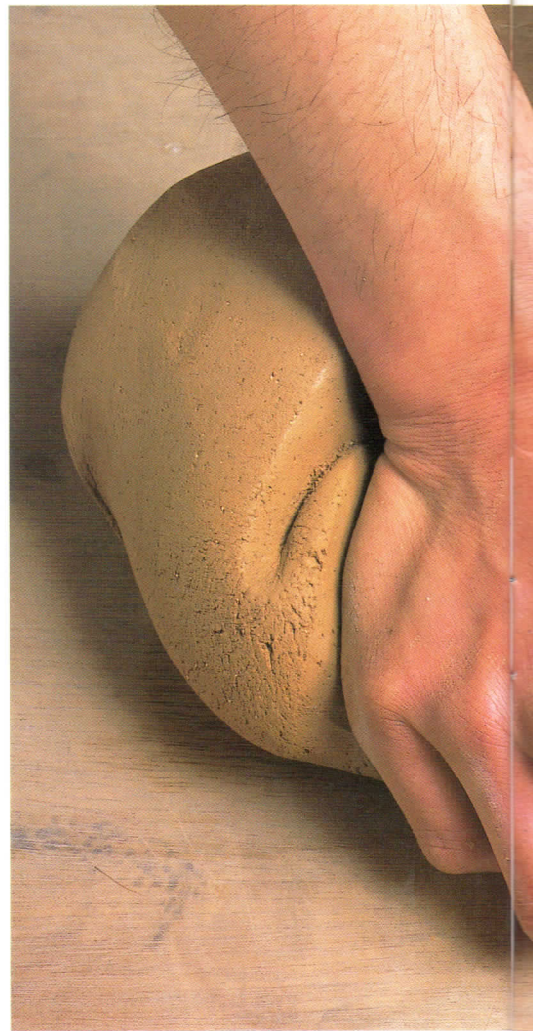


5 重心の移動がうまくいかなければ、花びらの形が乱れます。そうすると、場所によってよく練れているところと、そうでないところが発生します。

7 よく練れていると写真のように断面がきれいな状態ですが、練り方が足りないと、気孔が断面に表れます。目安のひとつとして、ところどころをカットしてみましょう。



8 土練りが終了したら、成形するまでの間、乾燥防止のために土全体を濡れタオルに包んでおきます。



成形する1

手びねりが一番素朴な成形方法ですから、ひとつひとつが個性的な形になります。ひも状の粘土を積み上げていくつくり方を「ひもづくり」と言い、土塊の穴を掘るように押し、広げ、伸ばして形づくるやり方が「掘り出し法」です。本書では、穴を掘るように押し広げるかわりに、平らに叩き伸ばしてから立ち上げる方法で、赤楽茶碗をつくります。

1 まず、茶碗ひとつ分の粘土700gを用意します。



2 てのひらの上で球状にまとめます。切り口の角を押さえ込むように。



◆成形において大切なことは、土をよく締めること。叩き伸ばしながら形づくることで、土が締まります。



3 まずまん中を叩いて、平たい丸にします。厚みは、高台を削り出すのに必要な1.5～2cmを目安に。なるべくゆがみのない丸にします。



4 今度はまわりを叩いて伸ばしていきます。



5 広げた両手にすっぽりおさまる大きさが目安。まん中の1.5~2cmの厚みはそのまま。



Point

濡れタオルで、 ときどき手を湿らすわけ

冷暖房によって、粘土が常に乾きやすい環境にあることが多くなりました。作業中は、乾燥を防ぐよう気を配りましょう。

作業をしばらく中断するときは、粘土を濡れタオルに包んでおきます。

作業中でも濡れタオルをかけておくのはもちろんのこと、乾いた手で作業をしていると、粘土の乾燥が進みますので、もう1枚、そばに置いて、ときどき手を湿らせます。

ほどよい湿り気の持続が、成形の秘訣と言ってもいいでしょう。



成形する 2

茶碗に若干の大小は当然ありますが、茶席で使われることを第一に考えると、お茶をいただきやすいほどよいサイズというものがありません。ときどきお茶をいただく仕種をして、大きさの加減をつかみましょう。



1 土を乗せたてのひらを少し曲げて、側面を起こします。



◆新聞紙をこまめに廻しながら、立ち上げていきます。ここで大切なのは一定の厚み。側面は5mmぐらいにします。



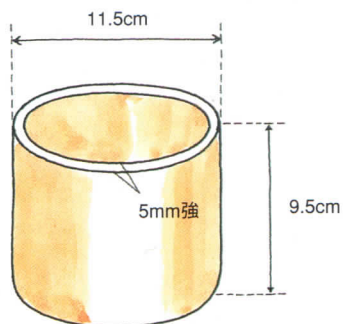
2 両手で包み込むように徐々に碗なりに起こします。



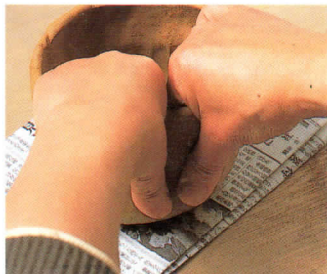
3 茶碗がひとつ乗るほどの大きさの新聞紙を、ろくろ代わりに使っていきます。



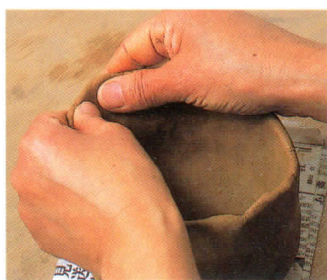
4 ここでは新聞紙で代用しましたが、市販のろくろ台があれば重宝します。



8 内部が大体できたら、今度は外側に親指がくるように手の入れ方を変えて整えていきます。



9 最後に口辺部分を整えます。あまり端を持つと、薄いところがすぐに変形します。親指は力が入りやすいので、親指の力を逃がすように成形します。



5 底に敷いた新聞紙を少しずつ時計まわりに廻しながら、両手の親指を内側にして、上へ引っ張るような気持ちで立ち上げていきます。ひとまわり、まんべなく伸ばします。



6 その次に片手で支えながら、もう一方の手で側面を整えていきます。まず底に近いほうからおこないます。



7 次第に口辺近くに指を移動させます。あわてて作業をすると、表面にひび割れが起こります。割れ目を防ぐよう慎重に。



Point

乾燥によって縮んでゆく茶碗 成形段階の大きさは、できあがり寸法の1割増

土の性質にもよりますが、やきものは乾燥や焼成によって収縮します。本書で使用した赤楽の土は、乾燥で約1割ほど縮みます。ですから、つくっているときに、ほどよい寸法と想着いても、できたら小さくなってしまったということがままあるのです。

てのひらに茶碗を乗せて、少し大きめという程度を心がけましょう。初心者ならば、たとえば見本の茶碗の口径を計測しておいて、1割増した寸法をきちんと計りながら作業をすすめれば、失敗しないでしょう。

この段階の粘土は十分な水分を含んでいるため重いのですが、これから高台部分を削り出したり、乾燥・素焼きが進むと軽くなりますので、心配いりません。ここで必要以上に薄くすると、形に無理が生じます。



乾燥・素焼き前



素焼き後



成形する3

成形段階の最後です。

茶席の茶碗で重要な働きをする茶溜まりや、茶筌摺りをつくります。

成形の工程を通じて大切なことは、茶碗の下部分から仕上げていくことです。

上の部分は、多少のトラブルがあってもなんとか解決できますが、下の部分はそうはいきません。

1 タンポをつくります。
15cm四方の手ぬぐいの中に、練切の菓子1個ほどの大きさの粘土(茶碗と同じ土を使用)を入れ、写真のように結びます。



2 最初に底を叩いて茶溜まりをつくります。このとき側面や周辺は叩かないようにします。



3 強い力で叩きすぎると不自然にへこみまし、底部が薄くなって高台が削り出せなくなるので注意。



5 すべりをよくするために、少しだけ水で湿らせます。

6 茶筌摺りをつくります。茶筌が当たる部分を想定して、少しずつ押し締めるようにこすりながらきれいに。



8 底部が仕上がったら、側面内部もタンボを添わせるようにしてきれいにします。広がらないように、かならず反対の手を外側から添えます。



4 少しずつきれいに叩いた状態。ゆるやかにくぼみの茶溜まりができました。

◆底部の厚みが充分に残っているか（高台の削り出しには、1.5cmぐらいの厚みが必要）、竹串などを刺してみても、計測しておくともよいでしょう。刺し跡はあとで消しておきます。

7 これで、茶溜まりと茶筌摺りがつくれました。もし叩きすぎて底が薄くなってしまったら、付高台にします(23・24頁参照)。



口辺の処理をする

口辺のバランスの悪いところをカットして、ほぼ高さを同じにします。赤楽碗の持ち味は、抱え込むような口辺のやわらかい感じ。茶をいただく場合の感触を思い出しながら、ていねいに仕上げていきましょう。

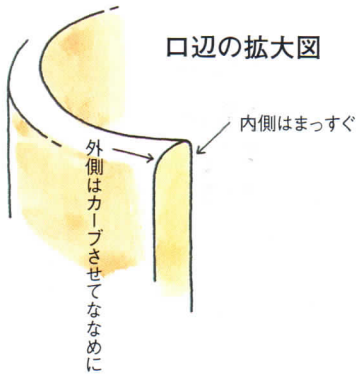


1 切り糸で慎重にカットします。目安は9.5cmの高さ。自然の味わいを生かしつつ、切りすぎないように気をつけます。



2 もし切りすぎてしまったら補修します。程度が浅ければ側面を引っぱりあげて修正。それで薄くなるようなら、切り落とした粘土をつけ直します。少量の水を断面につけて。

4 口のしまりが悪いとひび割れたりするおそれがあります。竹定規などで叩いて土を締めると同時に口当りのよい形にします。



3 補修面をよくなじませます。くっつきが悪いようなら、あらたな粘土を使うとよいでしょう。



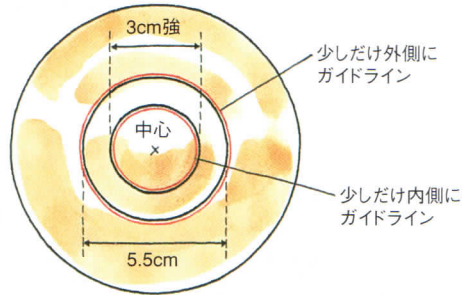
5 高台以外が成形できました。このまま日陰で数時間ないし1日乾燥させたあと、高台を削り出していきます。



2 中心の印を目安にして、高台の下書きをします。削り出しの作業は、このナイフ型のツゲベラを使っていきます。

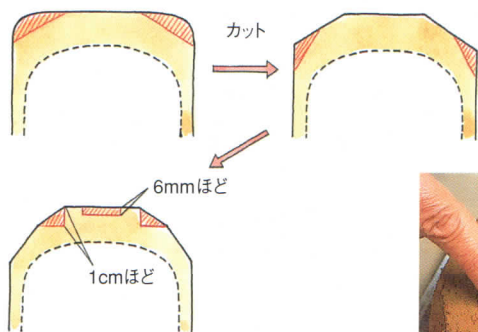


1 新聞紙の上に本体を伏せて置き、中心に印をつけます。



3 ヘラの刃を手前に向くように持ち、皮をむくような要領で、土を削ぎとりはじめます。あまり角度をつけると、内側まで削れてしまうため、様子を見ながら少しずつ。

◆このときなるべく真上から見て削りましょう。そうしないと中心が狂って、高台の位置がずれることがあります。



4 段差をつけます。削りカスを取り除き、指でならしておきます。



Lesson
8 赤楽茶碗篇

高台をつくる 1

半乾きの本体は、強く押せばゆがむ程度の固さです。乾燥が進むほど削りが困難になり、固い印象の仕上がりになりますので、楽茶碗の魅力である「やわらかさ」が失われるでしょう。まずは削り出してつくる高台を紹介しましょう。高台がまん中につくれるように、かならず下書きします。下書きはできあがりの大きさをきつちにせず、余裕をもたせます。



5 内側にもヘラを入れます。はじめは中心に向かってななめに入れ、大まかな形を掘り出します。

9 金ベラを使って指跡の凹凸をきれいにします。厚みは4~5mmを目安に。



6 次にヘラを立てて、余分な内側の粘土をとり除きます。あまり深くすると、内側に抜けてしまうので注意。さきほどと同じように指でならしておきます。

10 最後にタンポで肌を整えます。ここでは水をつけません。



7 くり抜きヘラを使えば、この作業は容易にできます。

11 全体が整えられました。茶碗の重さは約400gほど。この段階での持ったときの感じが、ほぼできあがりの重さと思ってよいでしょう。



8 およそ高台がつくれたら、起こして腰の余分な土を削り落とし、形を整えます。ざらついた表面になりますが、あとできれいにしますので、ここでは気にしません。



◆成形のときは粘土がやわらかいため、肉厚にしておかないと変形しやすいのですが、ここでその余分な厚みを削りとります。



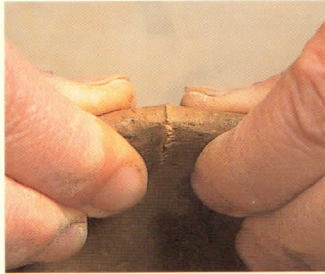
高台、 こんなとき どうする

ゆがんだとき



乾きが足りない、力を入れる作業で、ゆがむことがあります。押し戻して形を整え、しばらく時間を置いてから作業を再開します。

ひびが入ったとき



軽度なら、やわらかい新鮮な土を少量つけて指でならします。口辺の深いひびなどは、ほんの少し水を垂らし、写真のように双方から力を加えて押しませ。そのあと竹定規などで叩いて土を締めおきます。

3 内外とも半乾きの部分によくなじませ、きれいになります。



4 修復したらビニールや固く絞った濡れタオルをかけてゆっくり乾燥させます。



1 ヘラで、穴の周辺の土をケバ立て、粘土のくっつきをよくするためにほんの少量の水を垂らします。



2 適量の新しい粘土(やわらかい)を内側から置きます。



穴が開いたとき

◆そのまま急乾燥させると、ひび割れが生じることがありますので注意!

高台をつくる2

底の土が薄くて削り出せないようなとき、あるいは足高の高台が欲しいときは、生乾きの本体に、あらたな粘土を貼りつけて付高台(つけこうだい)にします。しっかりと高台をつけるのがポイント。

1 方法はふた通りあります。ひも状の粘土をつけて高台をつくる方法を最初に紹介します。底の周りをツゲベラで傷つけてケバ立えます。

2 高台の周とほぼ同寸の新しい粘土(ひも状)を用意します。



3 ほんの少量の水をつけ、粘土を乗せます。



4 接着面をしっかり押さえます。浮きやすい内側も忘れずに。



◆茶碗が傾かないように気をつけましょう。

5 茶碗を上向きにし、均等に両手で力をかけて上から押さえます。



6 再び茶碗を裏返し、ヘラや指で形を整えます。



Point

付高台のおもしろさ 形は整えすぎないこと

昔の楽茶碗を見ていると、付高台でつくられているものが結構あります。ろくろを用いない手びねりの楽茶碗には、付高台がよく似合います。

というのも、削り出して高台をつくる方法だと、生乾きの固い土を削るため、どうしてもカッコリとした印象になりがちです。しかし、付高台だとやわらかい土をつけますので、削り出し方法では出せない「味わい」が生まれるのです。

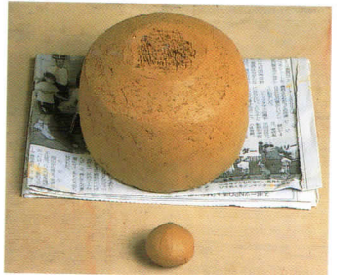
この付高台の感じを生かすには、きれいに形を整えすぎないことです。道具を使わず、なるべく指先だけで仕上げます。

高台は茶碗の重要なポイントです。楽しんでつくりましょう。

7 もうひとつの方法を紹介しましょう。高台をつけたい底面全体をヘラで傷つけてケバ立させます。



8 あたらしい粘土で直径3cmほどの球をつくれます。



9 水をつけ、球のまん中を指でしっかり押さえて接着させます。



10 高台が広がらないように加減しながら形を整えます。



11 先ほどと同様、茶碗を仰向けにして均等に力をかけて、畳付を水平にしたら、再び裏側に戻して指などできれいにします。



蓋置 ふたおき

日月文様蓋置



つぼつぼ文様蓋置

Lesson
10 蓋置篇

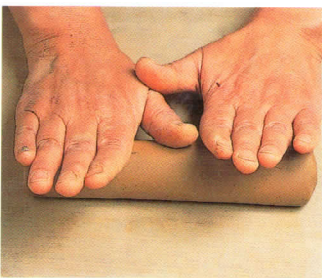
蓋置をつくる

茶碗と同じ粘土の残りを使って、蓋置をつくってみましょう。一定の厚みを持った土の板を曲げたり、貼り合わせたりしてつくる技法を「タタラづくり」と言います。この方法で蓋置をつくりまます。

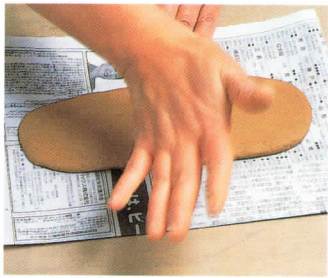
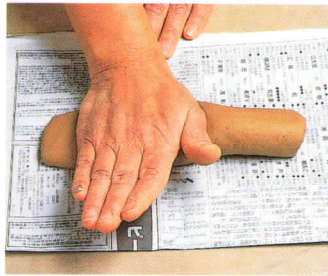
1 土練りをすませた400g強の粘土を用意します。



2 20cm弱ほどの長さにします。転がしながら伸ばすと、土が締まります。

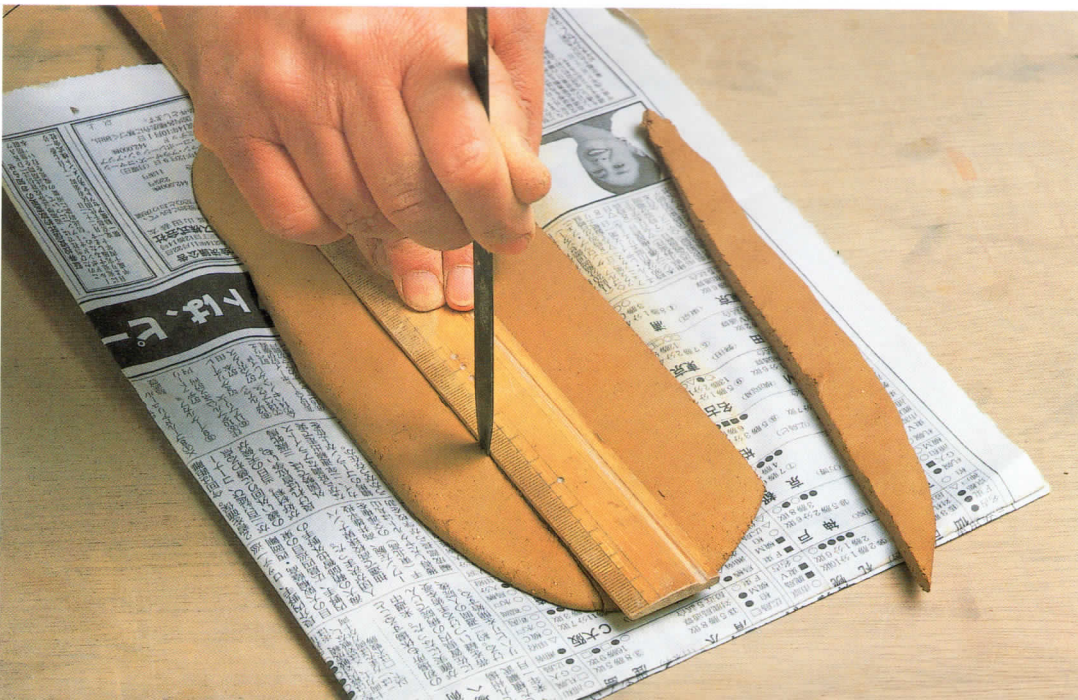
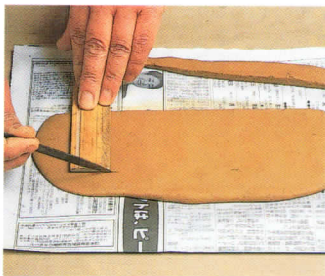


3 台にくっつかないよう新聞紙を敷いて、叩いて平らにします。長さはつくりたい蓋置の直径×3倍強、厚みは5mmほどが目安。

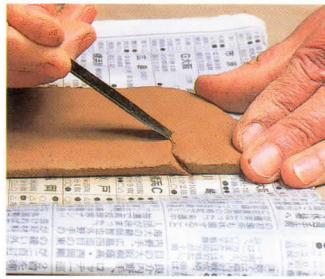


◆ やりにくいかもしれませんが、なるべく厚みを均一にしましょう。

4 蓋置の高さを決めます。きちんと採寸して、金ペラで上下をカット。焼いて縮小する分(1割)を加算した寸法にします(たとえば5.5cmの高さの蓋置をつくりたいなら、6cm強の高さに)。



6 粘土を立てて輪に
します。つくりたい直径
に縮小分を加算した寸
法を計って合わせます。

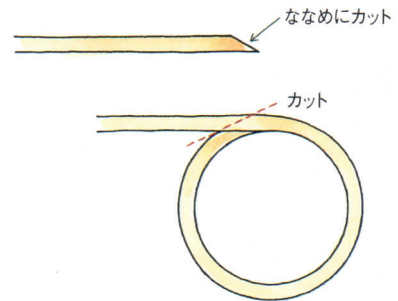


5 片側1辺をななめに
カットします。

7 ななめにカットした
片方と互い違いに合
わせるように、残りの1
辺を切り落とします。

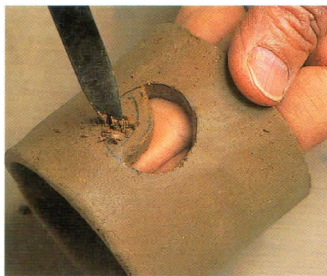


8 断面を双方からよ
くなじませます。やわ
らかい土どうしなので水
をつける必要はありま
せん。

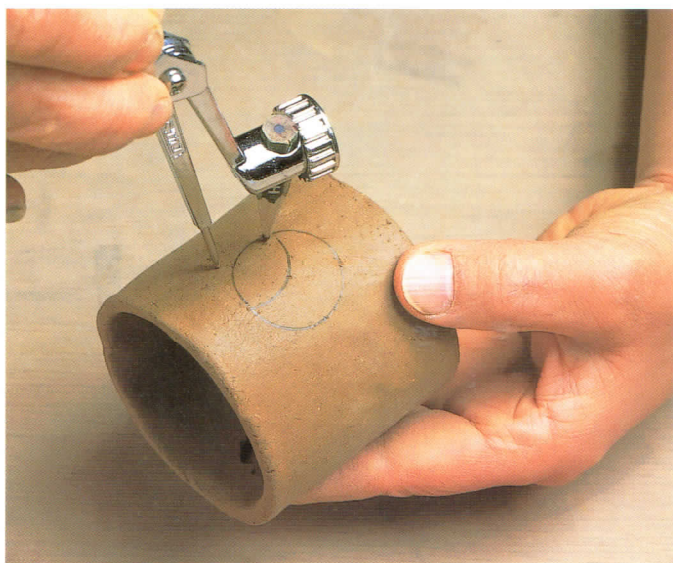


◆この土台に透かし彫りで文様をつくりますので、
風や陽の当たらない(もちろん冷暖房もない)ところで、
約半日~1日間全体を均一に乾燥させます。
乾き具合がよくないとうまく彫れません。注意しましょう。

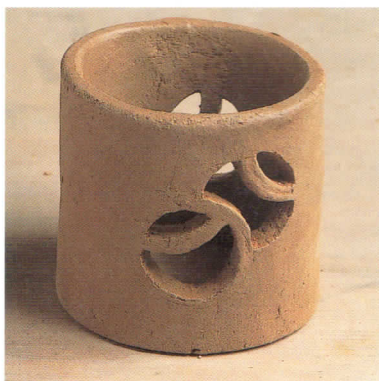
12 細部も慎重に穴を開けます。内側から支えて作業をすすめるとよいでしょう。全体が彫れたら、内側のケバ立ちをきれいにしておきます。



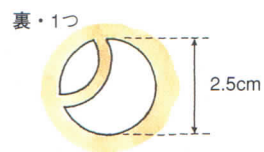
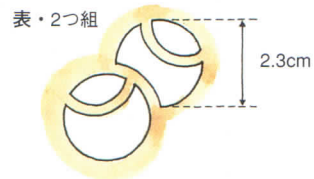
9 持ってもゆがまない程度(固め)に乾かした土台につぼつぼ文様を透かし彫ります。



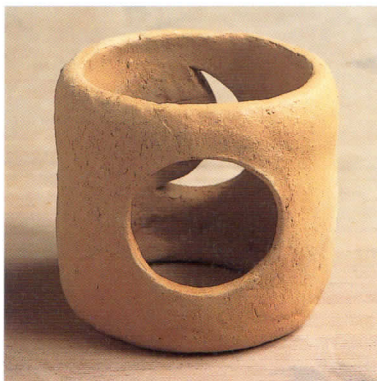
13 つぼつぼ文様の蓋置が完成しました。



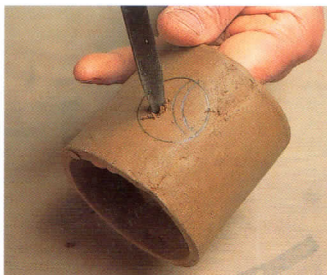
10 文様をコンパスを使って描きます。文様の型紙をつくっておいて、土台に転写すると簡単です。



11 1カ所穴を開けて土の逃げ場をつくってから、徐々に広がっていきます。一度に多く彫ろうとしないこと。



14 日月文様の蓋置は、満月と三日月を彫ったもの。上下の縁を内側に少し曲げただけで、印象がずいぶん変わります。



香合 こうがい

もみじ香合



亀香合



香合をつくる

香合は、はじめにおよその形をつくったあと、上下に切り分けて内部をくり抜きます。そして「かかり」と呼ぶ凹凸をつくって、蓋がずれないようにします。赤楽茶碗と同じ粘土で、亀香合を例にしてつくってみましょう。

1 土練りをすませた200gの粘土を用意します。



2 親指と人さし指で、つまんだり押ししたりして、亀の形にします。



◆このようなかたまりを乾燥させる場合、急いで乾かすと、粘土が反ったりして上下の合わせが悪くなります。ゆっくり時間をかけて均一に乾かすのがコツ。

3 これでほぼ全体(高さ4cm・幅6cm・全長8cmが目安)が成形できました。



5 下部の断面に、片栗粉をまぶし、断面どうしのくっつきを防ぎます。上下を重ね合わせて手ぬぐいで覆い、風通しの悪い暗所で2日ほど乾燥させます。

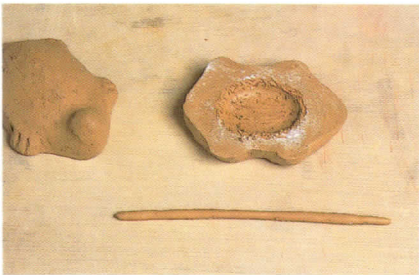




7 円の周りをケバ立てます。



6 下部の内側から削り仕上げをします。香が入る程度の大きさの円を下書きし、くり抜きヘラで削ります。



8 ケバ立てたところにかかりをつけます。周とほぼ同寸のひも(直径3mm程度)を用意します。



✦あまり深く掘りすぎないように注意!



9 ケバ立てたところに少量の水を垂らし、ひもがはがれないように押さえながら、形を整えます。



4 高さ1.2cm(香を入れるため最低1cm以上。1.2~1.5cmが適当)のタタラ板2つを両脇に置いて、切り糸で水平に切り分けます。切り糸はピンと張って、板から浮かないように押さえながら手前に引きます。

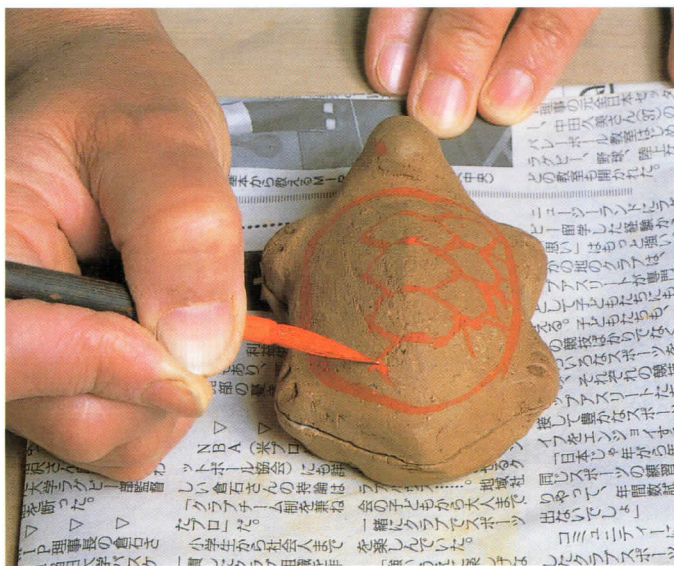


11 かりをつけた下部と軽く合わせます。

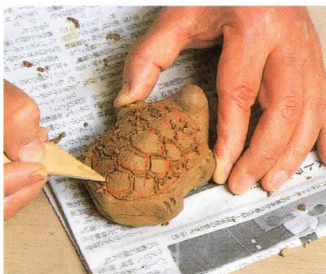


10 上部の断面に片栗粉をまぶします。

16 表面に亀の文様をつけるために、朱墨か墨で下書きをします。えんぴつだと書き跡で削れてしまうため注意。



17 下書きにそって文様を彫ったあと、削りカスを乾いた筆で払っておきます。



19 亀香合が完成しました。

18 細部に凝るなら目玉もつけて(目の位置に小さな傷をつけて少量の水で貼りつけます)。



12 かかりの位置を上部に転写できました。



13 印より1mmほど大きくして、上部の内部をくり抜きます。



14 だいたいよさそうな形に削れたところで下部と合わせます。



◆浮いているところも、ぎゅっと押しつぶすと、下のかかりがつぶれて、きちんと合うようになります。また少しだけ位置を前後させて、合わせ部分に釉薬の厚み分+αのゆとりをつくりましょう。

15 これでかかりの処理が終わりました。



粘土の再生・保存

削りクズや乾燥してしまった粘土は、水で戻して使うことができます。少量ならば、戻るのにさほど時間はかからないでしょう。土がむらなくやわらかくなれば、再び荒練り・菊練りをおこないます。

1 粘土が完全に入る深めのボウル、手ぬぐい、適量の水を用意します。



2 手ぬぐいをボウルに敷き、削り仕上げで出た粘土を入れます。



◆粒をそろえたほうが、戻りが早いので、塊は小さく割り分けます。またボウルの粘土を強く押さえつけたりしないこと。適当な隙間を残しておくようにします。粘土は限りある資源です。捨てずに大事に生かしましょう。

3 ひたひたになるほどの水を入れます。



4 手ぬぐいで完全に覆って、数日かけてゆっくりと戻します。また10日間ほど置いたほうが、余分な水気がとれて練りやすくなります。



保存の仕方

ビニール袋で包んだ上、蓋つきのポリバケツなどに入れておけば、かなりの期間よい状態で保存できます。濡れタオルをかけて、時々水をかけるなどして湿気を保ち、乾かないようにします。なるべく風通しの悪い暗所に保存しましょう。

細菌によってカビが生える場合があるかもしれませんが、練り込んでしまえば心配いりません。

素焼き・施釉

素焼きをした茶碗に釉がけすることを施釉と言います。素焼きは絶対にしなくてはいけないものではないと言われますが、素焼きをすると強度と吸水性が高まり、格段に扱いやすくなるため、施釉が楽におこなえます。楽茶碗は通常より高い温度(900度)で素焼きをして、土の臭いを消すようにします。



素焼き

1週間ほど完全に乾かしてから素焼きします。小品数点を小型窯で焼く場合でも、徐々に温度を上げますので、4、5時間はみておきましょう(窯は各メーカーの取り扱い説明書参照のこと。窯の解説は37~39頁)。



乾燥

完全に成形できたら、しっかりと乾燥させます。2、3日室内に置いたあと、屋外(日陰)に出して、作品の表面が白くなったら日光に当て、約1日ほど乾かします。指先で軽くはじくと、乾いた高い音がします。

施釉前の手入れ



1 削り仕上げでさくられた肌に、サンドペーパー(100番)をかけます。茶碗は、口が直接当たる口辺と茶筌摺り(茶筌が折れないように)をなめらかに。

◆ざんぐりした風合いが好みなら、あまりいいねいにサンドペーパーをかける必要はありません。ただし線刻などの「バリ」(キザギザのこと)はきれいにしておくとうよいでしょう。

2 蓋置の透かし彫りの断面もきれいに。



3 粉がついたままだと釉が乗りにくいため、水を含んだスポンジで拭きとります。



赤楽茶碗の基本釉配合

茶碗・蓋置・香合各1個に必要な釉の量

▲鉛白(えんぱく) 200g

鉛白は唐の土とも言う。純度の高い塩基性炭酸鉛。釉の溶ける温度を調節し光沢を出す役目。

▲無鉛フリット 200g

人工的な原料。白玉とも呼ばれる。ソーダ灰・炭酸カリ・硼砂(ほうしゃ)・炭酸鉛・酸化鉛を、珪石(けいせき)・珪砂に加えて溶かしてつくったものを冷却、粉碎したもの。

▲珪石 100g

やきものの素地、釉の骨組みをつくる主役を果たす。塩基性物質と比較的低温で化合し、ガラス質になる。

※これらを乳鉢でよく擦り合わせて、水で薄め(下塗り用)と濃いめ(上塗り用)に溶く。

※本書では、基本配合に少量の「長石」(濃くかけると白濁し、変化が表れる)を加えています。

5 スポンジで拭き清めた茶碗が乾いてから、薄めの釉薬をしたたらない程度に刷毛にとり、内側から塗っていきます。



4 薄めに溶いた釉薬は、ほとんどサラリとした水(下塗り用)。

✦上塗りは、こすらず、スピーディにおこなしましょう。色は光の屈折で表現されるため、ハケで塗ると味わいが出ます。



6 下塗りは焼成後のピンホール(土目の小さな穴)を防ぐ役割。素地に擦り込むように塗ります。



7 下塗りを十分に乾かしてから、濃いめに溶いた釉薬(上塗り用)を塗り重ねます。



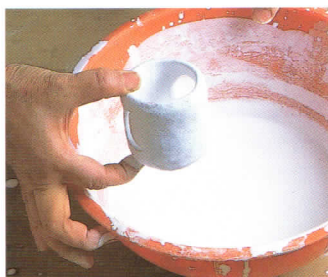
8 先ほどと同様、内側、外側の順に。

10 電気窯で焼く場合は、畳付の釉薬を濡れスポンジで拭きとっておきます。



9 2度塗りしたもの。

15 黒砂糖水で表情づけをしたものに釉をかけます。蓋置などタタづくりの小品なら、薄液(下塗り)をかけるとき、液中に全体を浸してもかまいません。



16 微妙な味いを出すために、上塗りには刷毛を使います。



17 施釉を終えたところ。いずれも電気窯の場合は、棚板につくところの釉薬を、濡れスポンジで拭きとっておきます。



11 赤楽の表情を変化させる景色を演出してみましょう。濃淡の黒染の肌をつくる方法です。黒砂糖を少々水に溶きます。



12 素地に黒砂糖水を吸わせたスポンジを点々と押しつけるようにして、液を染み込ませます。



◆この黒砂糖水の表情づけは、液の濃度の加減がむずかしいのです。釉の濃淡、焼きの具合によっても、現れ方が違ってきます。何度かスポンジを押しつけて、強弱をつけてみましょう。

13 たとえば、日月の蓋置の月の面だけ黒染の肌になるように加工します。



14 茶碗は黒染の景色が腰から立ち上がるような感じに染み込ませてみます。



本焼き

窯の設置

スペースや騒音、煙などを考えると、二の足を踏んでしまうのが窯の設置です。それにくらべて陶芸教室のよいところは、焼成の設備に不安がない点だとも言えます。粘土の用意、成形、釉薬、焼成のすべてにわたってプロの指導が受けられるのは、初心者にとって心強いものです。

しかし最近是小さくても高性能な窯が各社から開発されています。たとえば電気窯にしても、少し前までは家庭用電源の100Vで使用できるものは少数でした。

本書では、楽茶碗が焼ける扱いやすい小型窯を紹介いたします。その前に窯の種類について少しばかり解説しておきましょう。

素焼き・釉がけをおこなった後、本焼きします。

赤楽は900度、ちなみに黒楽は1150度前後で焼きます。

楽焼は短時間で焼成します。焼成時間が短いと、釉薬は溶けても素地土はさほど焼き締まりません。

ですから吸水性のある比較的高温の陶器となります。それゆえ熱の伝導がおだやかなので、

熱い湯を注いで持ってもほどよい温もりであること、見た目にもやわらかな感じを与えることなどが、

楽茶碗たりえる特徴と言えるでしょう。本書の茶碗、香合、蓋置は灯油窯で焼成しました。

窯の種類

窯は使用される燃料によって、使い勝手や焼き上がりが違います。

燃料には、電気、石油、都市ガス・プロパンガス、そして薪を使う登り窯などがあります。たとえば同じ作品でも電気と薪とで焼きくらべてみると、まったく違う作品になります。

◆電気窯

確実性の高さが特徴。平均に温度が回るため、炎がつくる自然の味わいは出ません。しかし昨今の電気窯は、味わいを工夫して表す技術が格段にアップし、多機能で手軽に扱えるものが多く出ています。操作が簡単であることも利点です。

ただし本格的なものだと、電力会社によるボルトアップ工が必要で、電気料金が案外かかるのが難点と言えます。基本的には酸化焼成に向いていますが、ガスバーナーの併用で、還元焼成ができるように設計されたモデルもあります。

◆石油窯（灯油窯）

電気窯は全自動焼成が主ですが、これはつきっきりで燃料・ファンなどの調整が必要なので、慣れるまで時間を要します。しかしランニングコストが安く、薪窯に近い雰囲気を得られます。燃焼音が高く、臭いが出やすいため、周囲の環境に十分注意しましょう。

◆ガス窯

全自動焼成ではありませんので、石油窯と同じく燃料・ファンなどの調整に慣れるまで時間を要します。石油窯に次いでランニングコストが安く、焼き上がりの雰囲気も味わい深いです。電気にくらべると危険度が高いように思われがちですが、臭いや騒音もそんなに気になりませんし、住宅街でも安心して使えます。

◆薪（登り窯）

伝統的な焼成方法で、機械ではけつして味わえないような焼き味が楽しめます。仕上がりは常に自然の力にゆだねられます。とくに土ものは、窯内の想像できない温度変化や灰の力に助けられて、その魅力は倍増するとも言ってもよいでしょう。

ただし築窯には広い場所が必要ですし、現代では薪の調達も簡単ではありません。プロの作家でも薪で焼く人は少ないように、もったもむずかしくせいたくなく焼き方です。

施釉した作品を
窯に入れるとき



1 素焼きはある程度積み重ねて焼くことができませんが、釉薬をかけての本焼きは互いの間隔を開けます。電気窯で焼く場合は、高温で引き出すことなく窯の中で徐冷しますので、棚板にくっつかないように、かならず底の釉薬を拭きとった状態で置きます。あるいは写真のように釉を拭きとらず、3ヶ所に目土(めつち)を立て、焼成後にとり除きます。目土は童仙坊(どうせんぼう)と呼ばれる別粘土。

2 香合は重ね合わせるところも釉薬をかけてあるので、身と蓋を別々にして詰めます(電気窯、ガス窯にしろ、詰め方によって、焼成状態は一定ではありません。各メーカーの取り扱い説明書にしたがいましょう)。



MSB-1.5型

192,000円(税別)

小型ながら中皿(23cm)も焼ける電気窯。マイコン式全自動温度制御方式。APS丸ヒーターを採用しているため、変形が少なく長寿命。断熱材部には空気層を設けて放熱を押さえている。キャスト付きのため、使用しないときは部屋の片隅に寄せられる。



SN-5S型(標準型)

205,000円(税別)

楽焼用とうたわれた石油窯。いわゆる穴窯と同様で、火を直進させる直炎式と呼ばれる構造。電気窯ではむずかしい自然な味わいに富んだ作品が生まれやすい。火前や火後など、場所によって、温度や炎の向きが違うため、直炎式でもおだやかな作品もできる。炉内が広く、炉壁は軽量耐火断熱レンガ。ランニングコストが安いのもうれしい。



DAR-1M

198,000円(税別)

ベランダにも置けるコンパクトな設計で、マイコン制御でありながら10万円台の低価格を実現した電気窯。家庭用100V電源使用。基本プログラム10種を内蔵する。焼成開始時間を設定できるタイマー機能つきがうれしい。このクラス最大の炉内スペースなので、高さ20cmの作品も焼成できる。保温効果の高い2重炉壁構造。

小型窯紹介

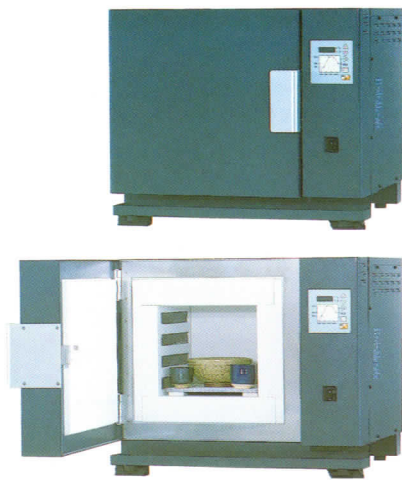
新日本造形株式会社 東京本社

東京都中野区新井1-42-8 TEL 075-958-3621 <http://www.snz-k.com/>

日本電産シンポ株式会社
京都府長岡京市神足寺田1
(工芸営業部)

TEL 075-958-3621

<http://www.shimpo.com/>



窯わん

318,000円 (税別)

家庭の100Vのコンセントにつなげられ、コンパクトな設計の電気窯。作品の出し入れがしやすい横扉式。「おまかせコース(10)」と、好みの温度・時間で焼成できる「自由コース(30)」が選択できる。使用中の本体表面温度を安全な温度に抑え、焼成中は自動的にロックされる。マイコン内蔵によるプログラム制御。別売りのさや鉢を使用すれば、還元雰囲気での作品を焼くことも可能。

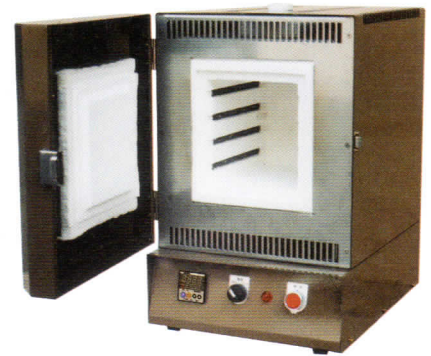
小糸工業株式会社
神奈川県横浜市戸塚区前田町100番地
TEL 045-822-7101
<http://www.koito-ind.co.jp/>



KRF-450proS

468,000円 (税別)

本格派には200Vタイプ。電気炉なのに副燃焼室を持つ2階建て構造によって、還元雰囲気均一に仕上げられ、バーナー周辺の温度過多も防げる。マイコンによる1分、1度単位の入力可能。楽焼プログラム登録済み。



LESA-15

198,000円 (税別)

酸化焼成専用で、楽焼用プログラム登録済みの小型電気窯。家庭用100V電源使用。90分1250度の昇温。強制冷却により150度まで4時間で降温する能力を持つ。出し入れがしやすい前扉式。マイコンで焼成温度、時間が自在に登録可能。とにかく楽茶碗を焼いてみたいという人には最適。

伊勢久株式会社 陶芸部

愛知県名古屋市中区丸の内3-4-15 TEL 075-958-3621 <http://www.isekyu-jp.com/>

※リピーターの方には赤染土のみの販売も可。1kg 600円。
※窯焚きは2・5・9・12月の年4回を予定(急ぎの方は別途相談ください)。
※桐箱も別料金でおつけすることが出来ます。

問い合わせ先
日本陶芸倶楽部
〒150-0001
東京都渋谷区神宮前1-5
東郷神社境内
TEL 03-3402-3634
FAX 03-3470-2528



内容

- ◆ 赤染土 2kg
(茶碗・蓋置・香合各1点分+αの量。土練りがしてあるので即成形できる)
- ◆ ツゲベラ 2本
- ◆ 金ベラ 1本
- ◆ くり抜きヘラ 1本
- ◆ 切り糸

定価 3,900円
(消費税込・焼成費別・送料別)

施釉・焼成(灯油窯)費

茶碗 10,000円
香合 5,000円
蓋置 3,000円
(すべて消費税込)

陶芸道具と粘土がセットになっているため、自宅ですぐに赤染茶碗が出来ます。成形後の作品を倶楽部に送付すれば、釉がけ・焼成をプロがおこなない、仕上がった作品を自宅へ再送します。

日本陶芸倶楽部
自宅で楽しむ作陶セット

日本陶芸倶楽部 にほんとうげいくらぶ

昭和42年、財界人で茶人の松永安左エ門(耳庵)を初代会長、
哲学者で茶人の谷川徹三を初代理事長に迎え、

「アマチュア陶芸の振興と普及」を目的として発足した。

吟味された豊富な材料、充実した設備(窯は電気・ガス・登窯)、

確かな技術のていねいな指導陣によって、

茶の湯のやきもの全般を楽しみながら創作できるのは、

創立以来35年間経た現在も変わらない。

「茶陶テーマ日曜陶会(年4回)」「黒楽茶碗をつくる」「赤楽茶碗をつくる」

など多彩な茶陶メニュー、

「テーマ別・食の器」「子ども陶芸体験」「上絵付教室」「登窯窯焚実習」他の

催しも充実している。

著書に「アマチュア陶芸入門」(実業之日本社)。

東京都渋谷区神宮前1の5 東郷神社境内

TEL 03-3402-3634

<http://www.tougei-club.com/>

撮影 岡崎良一

イラスト 飯島満

装丁・レイアウト 縄田智子 若山美樹 L'espace

茶の湯 手づくりBOOK 手びねりの茶碗

平成15年3月12日 初版発行

指導 日本陶芸倶楽部

発行者 納屋嘉人

発行所 株式会社 淡交社

本社 京都市北区堀川通鞍馬口上ル

営業 075-432-5151

編集 075-432-5161

支社 東京都新宿区市谷柳町39の1

営業 03-5269-7941

編集 03-5269-1691

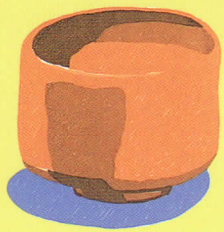
<http://tankosha.topica.ne.jp/>

印刷製本 大日本印刷株式会社

©2003 日本陶芸倶楽部

Printed in Japan

ISBN4-473-01979-9



好評発売中!
茶の湯手づくりBOOK
各1,050円(税込)



はじめてつくる
茶杓・共筒
指導 池田瓢阿

基本的な利体形の「茶杓」と、行の「筒」のつくり方を紹介。
プロが内緒にしてきたコツを教えます。



かならずできる
竹花入
尺八・一重切・二重切
指導 池田瓢阿

きちんとお茶に使える竹花入のつくり方を紹介。
材料さえそろえば、短時間で仕上がるのがうれしい。



採寸・型紙 てっぺい指導
茶入の仕覆
指導 上田晶子

一般的な肩衝茶入の仕覆に挑戦。
型紙づくりや裁断、本縫い、緒のかがりまで、スピードマスター。



かんたんソーイング
おけいこ着・水屋着
淡交社編集部編
製作 木村幸夫 協力 ちい茶な会

なにかと重宝する水屋袴。帛紗がきちんと挟めるおけいこ着。
手ばやくつくれる直線裁ちの作品満載。



茶籠に仕組む
仕覆・網袋
指導 上田晶子

茶籠の茶道具に、美しい仕覆や自作の網袋を添えてみましょう。
スモールサイズのかわいい袋物紹介。

ISBN4-473-01979-9

C2076 ¥1000E

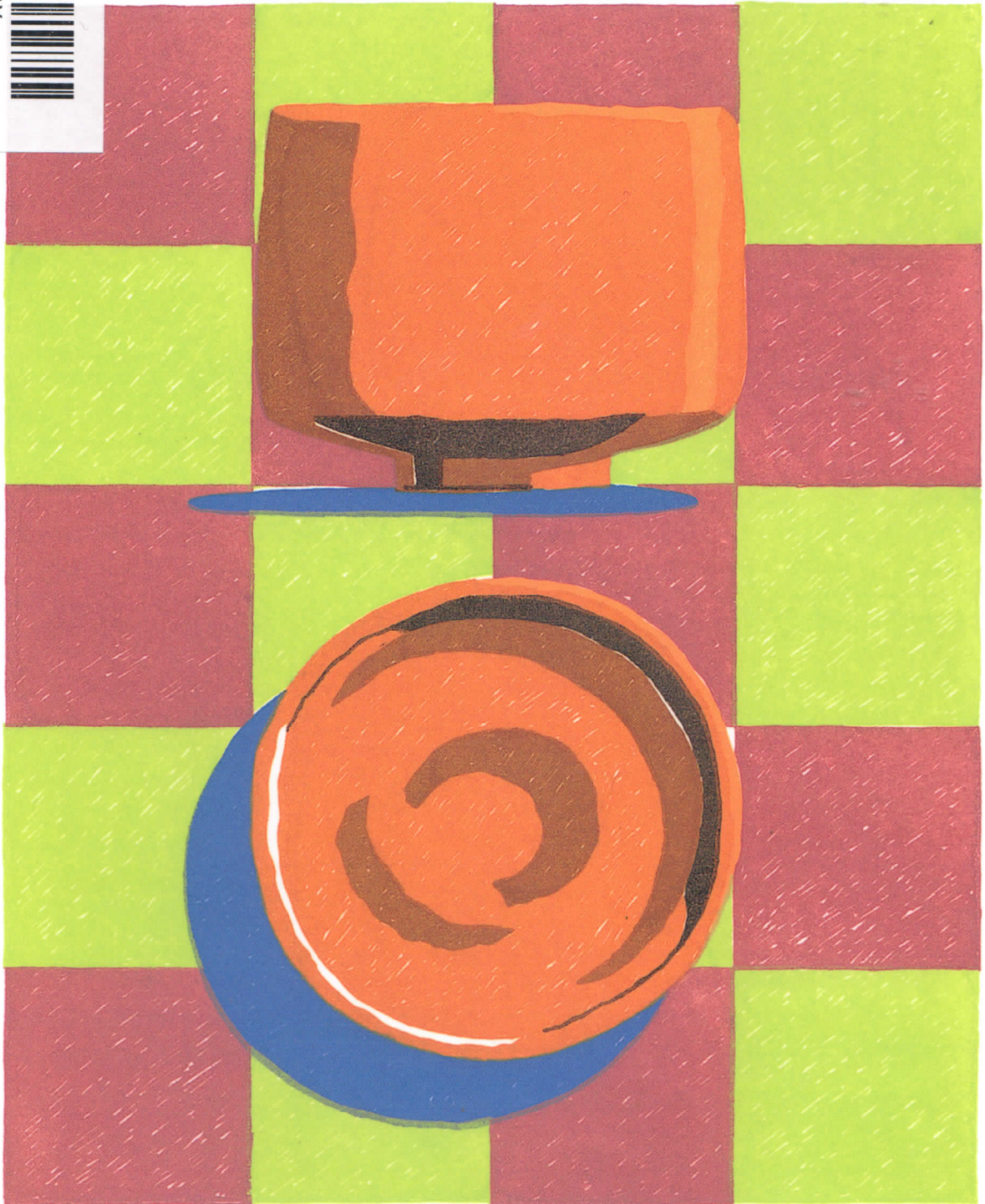
定価： 本体1,000円 + 税



X0004CLWAV



はじめての作陶 手びねりの茶碗 (茶の湯
中古商品(良い))



11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100